

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（ 口腔健康科学 ）	氏名	前原 朝子
学位授与の条件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
日本人における日常身体活動および余暇の運動と嚥下障害の関連			
論文審査担当者			
主査	教授	竹本 俊伸	印
審査委員	教授	加来 真人	
審査委員	教授	宮内 睦美	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>嚥下障害は，加齢や慢性疾患と関連することが報告され，嚥下障害は不顕性誤嚥や日常生活動作の低下，全身の筋力低下を引き起こす可能性が指摘されている。なかでも全身の筋力低下（サルコペニアやフレイル）と嚥下障害の関連については多数の研究報告が認められ，身体活動の低下は全身の筋力低下および嚥下筋力の低下につながり，嚥下障害を引き起こすことが示されている。高齢者や入院患者における嚥下障害と身体活動や筋力低下の関連については報告されているが，一般住民を対象とした研究は少なく，さらなるエビデンスの蓄積が必要である。地域に在住する一般成人を対象に，身体活動と嚥下障害の関連を検討することを研究目的として，質問票を用いた横断研究が行われた。</p> <p>研究対象は東海地方に在住する30代から70代の男女であり，嚥下障害に関する項目と身体活動量に欠損値のない者が分析対象となっている。自記式質問票調査より，生活習慣や健康状態に関する情報を収集している。日常身体活動と余暇の運動の評価は，国際標準化身体活動質問票を使用している。質問票の回答から1週間あたりの身体活動量を算出し，各身体活動量の4分位を用いて4群に分けて解析が行われている。嚥下障害は，地域高齢者誤嚥リスク評価指標を用いて評価している。合計スコア0点から24点で評価し，先行研究に基づき合計スコア4以上を嚥下障害ありと判定している。記述統計として，嚥下障害の有無別に関連要因の群間比較を行っている。さらに多重ロジスティック回帰分析により，年齢や性別，喫煙習慣，全身疾患の既往歴，精神健康度等を交絡要因として調整し，身体活動度と嚥下障害の関連を分析している。</p> <p>研究結果より，全体の24%が嚥下障害ありと判定された。男性に比べて，女性の有病率はより高く示された。男女ともに嚥下障害のある者は嚥下障害のない者に比べて，年齢および日常身体活動量が有意に高く，就労率が低く，非喫煙者の割合が低く，脳血管疾患の既往歴のある者の割合が高く，精神健康度が低いという結果であった。多重ロジスティック回帰分析の結果，日常の身体活動量と嚥下障害の間には有意な関連が認められなかった。一方，余暇の運動量が多いほど嚥下障害を有するオッズ比が有意に低下していた。余暇の運動量においては，性による層別解析でも同様の結果が示された。男性では，精神的健康度の調整後に両者の関連がやや弱まる傾向が認められた。</p> <p>以上の結果から，本論文は一般住民において余暇運動は嚥下障害のリスクを低下させる可能性を示した。よって審査委員会委員全員は，本論文が前原朝子に博士（口腔健康科学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。</p>			